

溝上 慎一の教育論(動画チャンネル) No419
(「審議まとめ」の方向性① 教育課程企画特別部会2026.8.4)

「統合的な理解」「総合的な発揮」やっとまとまってきました！－問題をどう解決するのか－

溝上 慎一 Shinichi Mizokami, Ph.D.

学校法人桐蔭学園 理事長
桐蔭横浜大学 教授

<https://smizok.com/>
E-mail mizokami@toin.ac.jp

【プロフィール】1970年生まれ。大阪府立茨木高校卒業。神戸大学教育学部卒業、1996年京都大学助手、講師、准教授、2014年教授を経て2018年に桐蔭学園へ。桐蔭横浜大学学長（2020-2021年）。京都大学博士（教育学）。
*詳しくはスライド最後をご覧ください

※本動画チャンネルは溝上が個人的に作成・提供するものです。

※公益財団法人電通育英会の研究委託を受けて行われています。

※本動画では字幕を付けていませんので、必要な方は「設定」で「字幕オン」にしてご利用ください。

審議まとめの方向性

①「個別最適な学び」は次期学習指導要領のどこに落とし込まれるか

②「中核的な概念」の深い理解から「統合的な理解」「総合的な発揮」へ、最後の問題点は？

②補足 高次の資質・能力の上限を定めよー単元を超えるか否かー

②補足Part2 現場の授業力に配慮して高次の資質・能力は評価せずー現実対応、それで現場は変わるか？

③ 総合的な学習・探究の改善点ー情報教育とのカップリングからマイ探究（個人探究）へ

④ 学習評価（観点別評価）ー学びに向かう力・人間性等を各教科等の個別水準で見取れる形式を示せるか？

⑤ 高校にとっての柔軟な教育課程ー義務教育段階での施策とのズレをどのように埋めるか

まず、問題点を復習します

No404

②「中核的な概念」の深い理解から 「統合的な理解」「総合的な発揮」へ、 最後の問題点は？

ここを押さえよう！

次期学習指導要領にむけた審議まとめ
の方向性(全5回シリーズ)



No405

②補足 高次の資質・能力の上限を 定めよー単元を超えるか否かー

ここを押さえよう！

次期学習指導要領にむけた審議まとめ
の方向性(全5回シリーズ)



No409

申し訳ありません、戻って修正・補足します！

②補足Part2 現場の授業力に配慮 して高次の資質・能力は評価せず 現実対応、それで現場は変わるか？

ここを押さえよう！

次期学習指導要領にむけた審議まとめ
の方向性(全5回シリーズ)



統合的な理解 と 総合的な発揮

『論点整理』（2025年9月25日）

知識及び技能に関する 統合的な理解

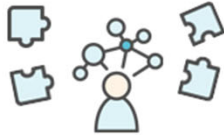
＼生きて働く／
知識及び技能

他の学習や生活の場面でも活用できる

高次の資質・能力

知識及び技能に関する統合的な理解

個別の知識や技能が相互に関連付けられて一般化され、
統合的な理解となった姿



(例)関数を使えば未知の状況を予測できる

社会や生活で直面する未知の状況でも課題解決に
繋げていけるよう「質」
を高めることが重要

資質・能力の
「深まり」の可視化

個別の知識や技能

知識① 知識② 知識③ 知識④



(例)比例・反比例の理解 / 1次方程式の解き方 等

思考力、判断力、表現力等の 総合的な発揮

＼未知の状況にも対応できる／
思考力、判断力、表現力等

知識・技能を活用しながら、未知の場面でも課題を解決できる

高次の資質・能力

思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮

複雑な課題の解決に向けて、個別の思考力、判断力、表現力
等を組み合わせたり選んだりして総合的に働かせた姿



(例)現実の事象を数式でモデル化し、未知の状況を予測して、
具体的な解決策を選択する

資質・能力の
「深まり」の可視化

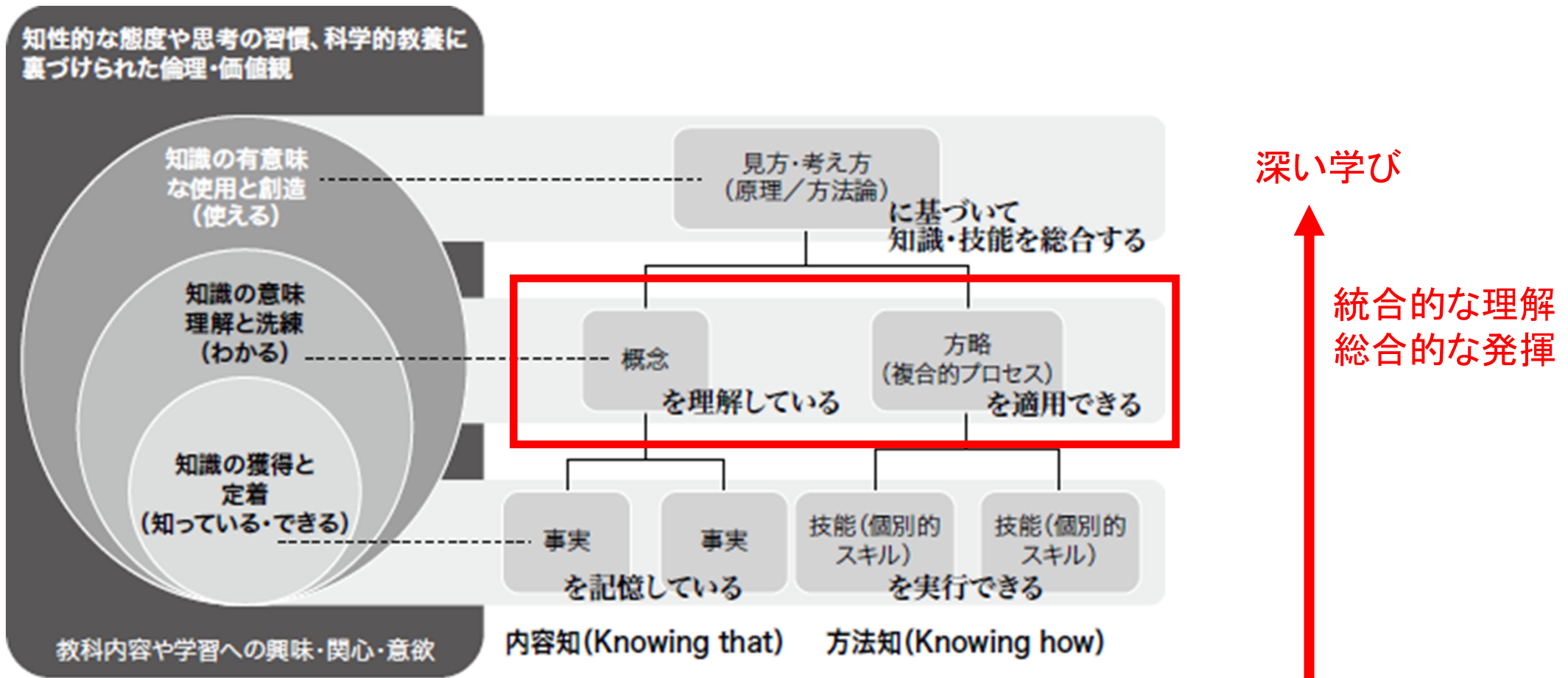
個別の思考力、判断力、表現力等



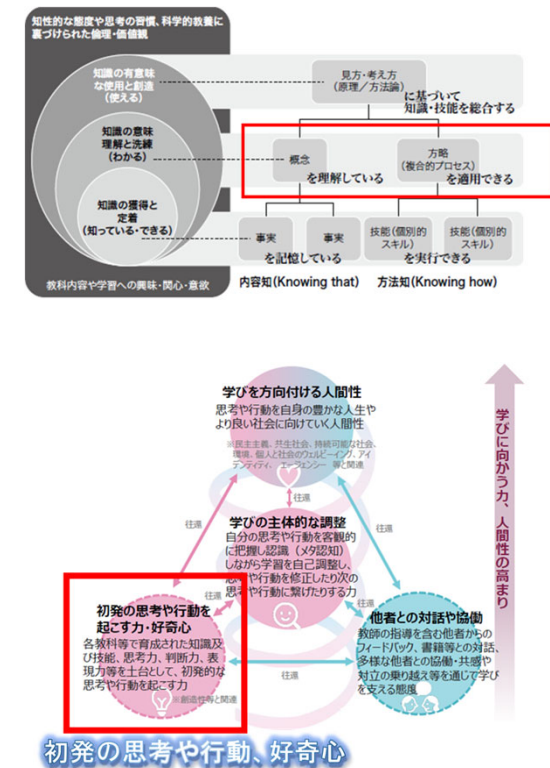
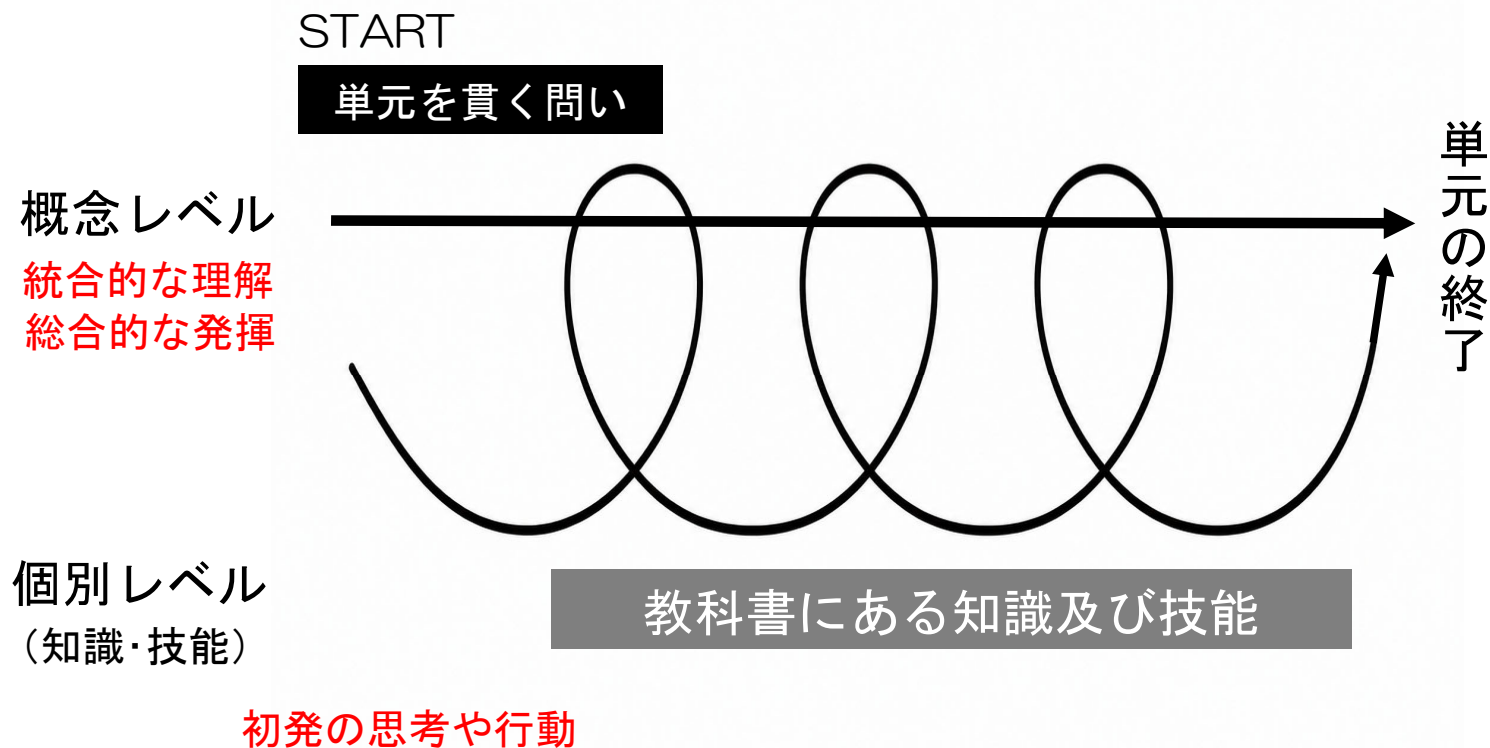
(例)二つの数量の変化・対応関係を見つけて式やグラフを用いて考察する 等

資質・能力の
「一体的育成」
の可視化

(参考) 知の構造 に対応させた深い学び



概念レベルでの授業づくり(=概念型授業[指導・学習])



(例：中学生の歴史) 「明治政府はどのように国づくりを進めたのだろうか」 (帝国書院)

「高次の資質・能力」等を活かして単元を構想するプロセスの一例（イメージ）

1

※高次の資質・能力（統合・総合）は直接的な評価対象ではない

評価対象はここ

2

高次の資質・能力を「活かして」単元構想を求める

8

10

※「統合的な理解」及び「総合的な発想」（以下「高次の資質・能力」）の記載は第9回算数・数学WGの御議論を踏まえて事務局にて修正したもの（今後WGにて審議予定）。「単元目標・評価規準」については、現行学習指導要領の「知識及び技能」及び「思考力、判断力、表現力等」を、高次の資質・能力を踏まえて事務局にて修正したもの。いずれも暫定。

第5学年相当 単元名：割合（百分率）

（統合的な理解）
・単位量あたりの大きさや割合、比は、二つの数量の関係を数で表したものであり、その数を用いて、二つの数量の関係どうしを比べられることを理解する。

（総合的な発想）
・事象における二つの数量の関係に着目し、比べ方を考察して、判断に生かす。

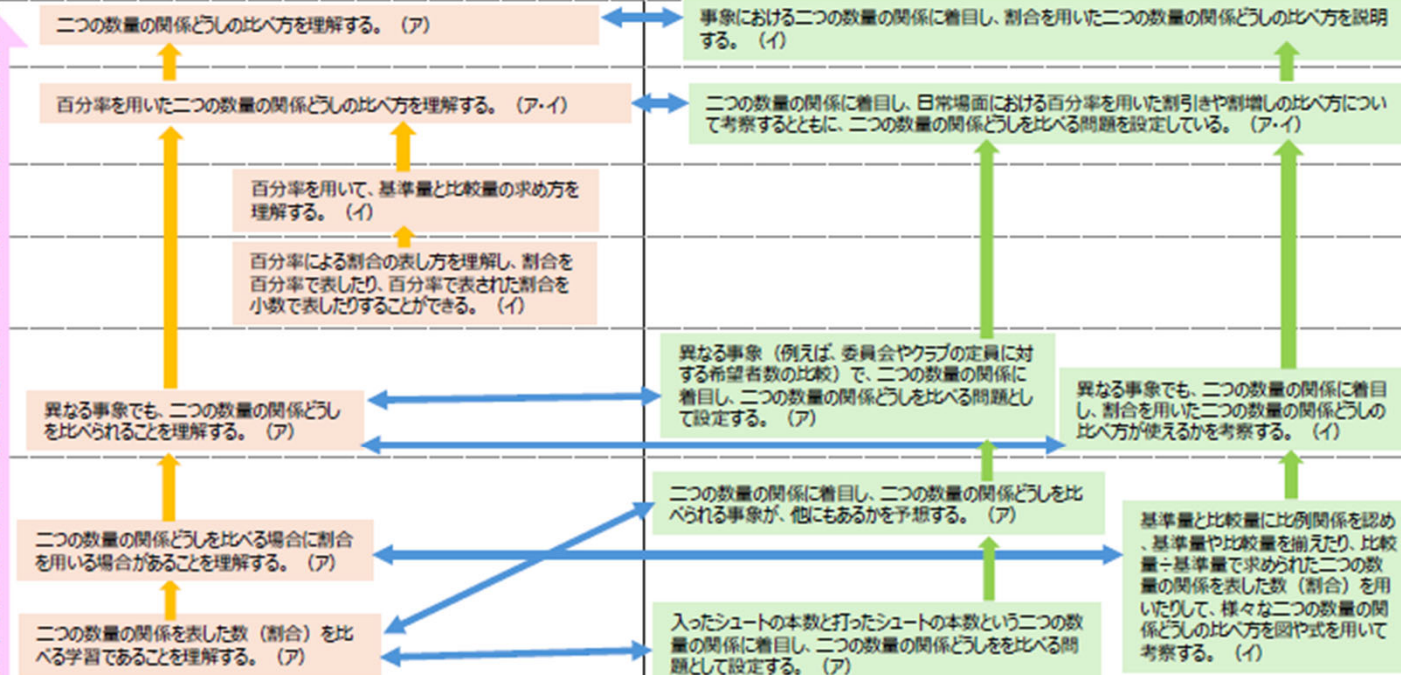
※高次の資質・能力は直接的な評価対象ではないことに留意

（単元目標・評価規準）知識及び技能
（ア）二つの数量の関係どうしを比べる場合に割合を用いる場合があることを理解している。
（イ）百分率を用いた表し方を理解し、割合などを求めることができる。

（単元目標・評価規準）思考力、判断力、表現力等
（ア）事象における二つの数量の関係に着目し、二つの数量の関係どうしを比べる問題として設定している。
（イ）事象における二つの数量の関係に着目し、二つの数量の関係どうしの比べ方を考察している。

単元目標・評価規準に到達するまでの学習のつながり

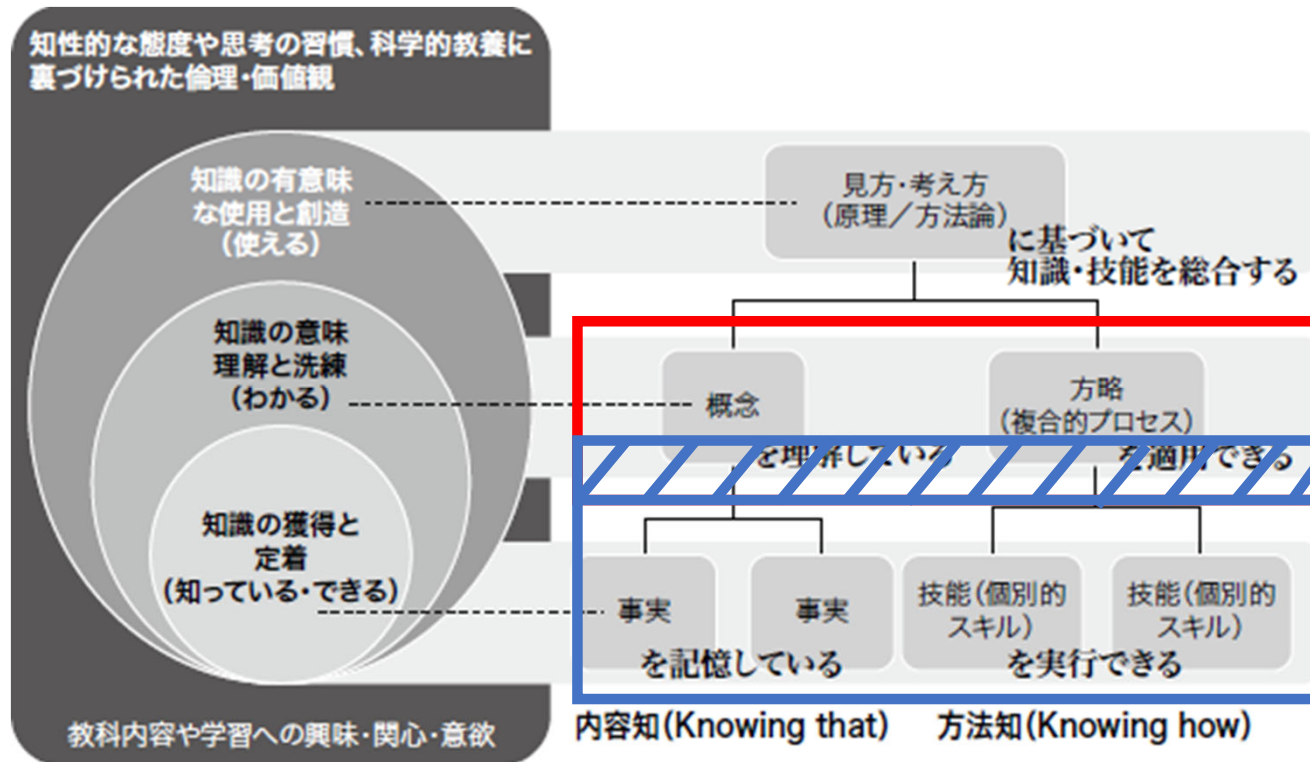
二つの数量の関係に着目し、二つの数量の関係どうしを比べる。



本単元の学習に関連が強い既習内容
（第4学年）簡単な場合についての割合
（第5学年）簡単な場合の比例の関係、小数の乗法及び除法、測定値の平均、異種の二つの量の割合

（学びに向かう力・人間性等の「見取る姿」）【検討中参考イメージ】
・事象に知的好奇心や目的意識をもって問題を見いだし、数学を活用しようとしている
・問題発見・解決の過程を振り返って評価・改善しようとしている
※「見取る姿」は各単元ごとに見取るのではなく、学年・学期などの長い期間を通じて見取るものであることに留意

知の構造に対応させて理解すると…



高次の資質・能力
(統合・総合)

単元目標・評価対象

大中小様々な単元学習
を通して統合・総合を
練り上げていく

解決しましょう

教育課程企画特別部会 第16回
2026年8月4日

- 【資料2】 審議まとめに向けた検討



「統合的な理解」「総合的な発揮」による 構造化

（２）「知識及び技能に関する統合的な理解」「思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮」による構造化

補足イメージ④参照

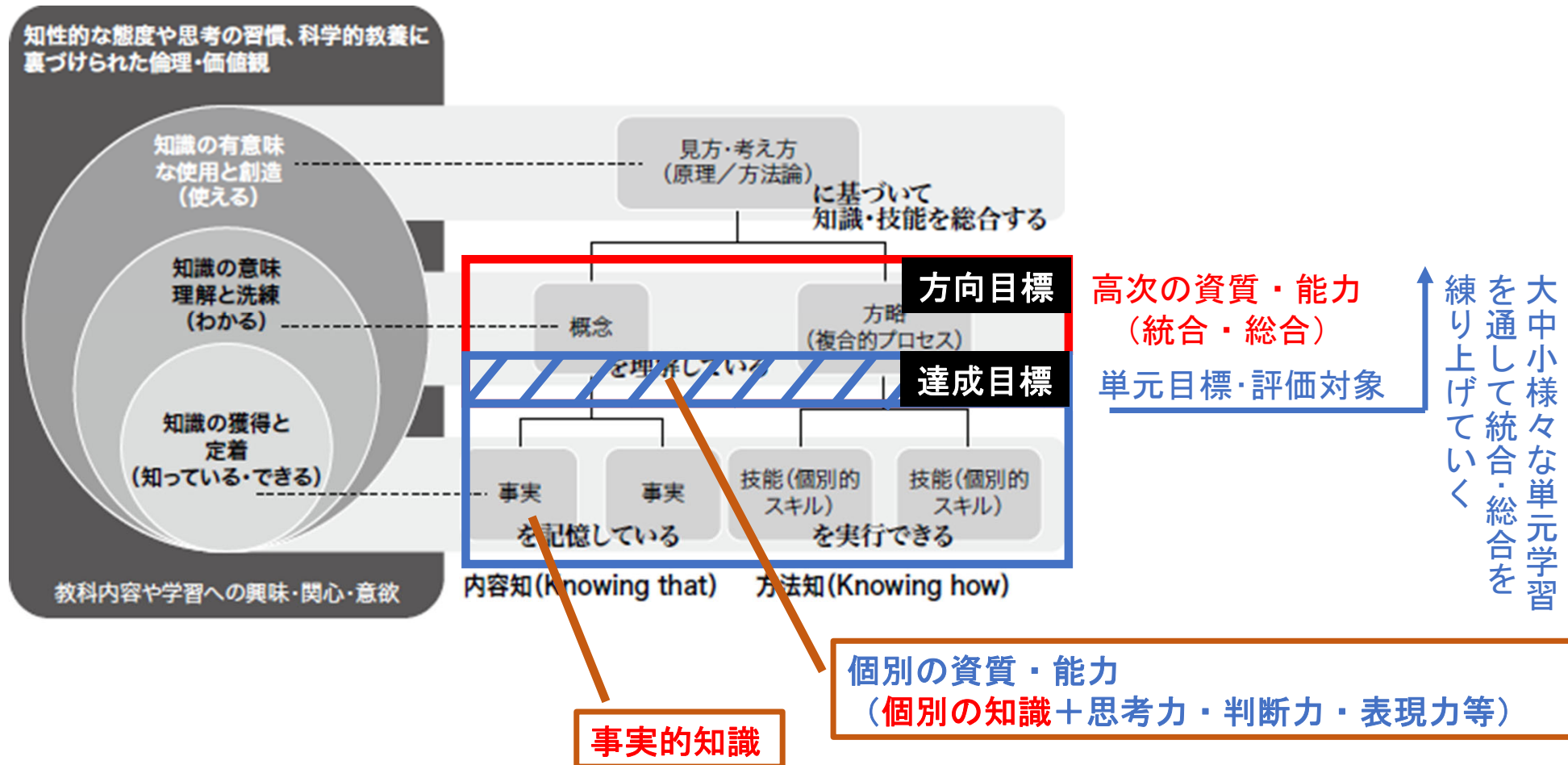
【「統合的な理解・総合的な発揮」の性質】

- 「統合的な理解・総合的な発揮」による構造化は、過去の学習指導要領に前例のない取組であることから、その性質をよく整理した上で、具体的な記載を検討する必要がある。
- 「統合的な理解・総合的な発揮」は、（１）で述べたように、個別の資質・能力の「深まり」を可視化し、「統合的な理解の状態」「総合的に発揮している状態」を一定の内容のまとまり（複数の内容項目・事項や領域等）ごとに、「資質・能力の軸」をシンプルに示そうとするものであり、それ自体を新たな内容項目として付加する性質のものではなく、むしろ内容の精選に繋がるものである。
- このため、これまで各教科等で検討してきた「統合的な理解・総合的な発揮」の記載においては、「何を」、「どの程度」といった到達の水準を示しておらず、そうした水準は引き続き個別の資質・能力で示されることになる。
- これを踏まえると、「統合的な理解・総合的な発揮」は、各教科等の本質に迫ることができるよう、個別の資質・能力の育成にあたり単元構成を促し、深い学びの実現のために多様なアプローチが可能な学習活動を展開させる観点から、達成の目標ではないものの、内容のまとまりごとに資質・能力の獲得や発揮の方向性を示す目標としての性質を有するものである（いわゆる方向目標）。
- このため、「統合的な理解・総合的な発揮」は、内容の中に記載するものの、個別の資質・能力とは明確に区別して記載する必要があり、表形式により視覚的に把握しやすくすることが適当である。
- なお、「統合的な理解・総合的な発揮」が内容のまとまりごとの資質・能力の獲得や発揮の方向性を示す目標としての性質を有することとの関係では、個別の資質・能力は単元等における達成の目標、各教科等の目標は、教科等全体で育成すべき資質・能力を示す全体の達成の目標とも言えるものであり、「統合的な理解・総合的な発揮」との性質の違いは明確である。

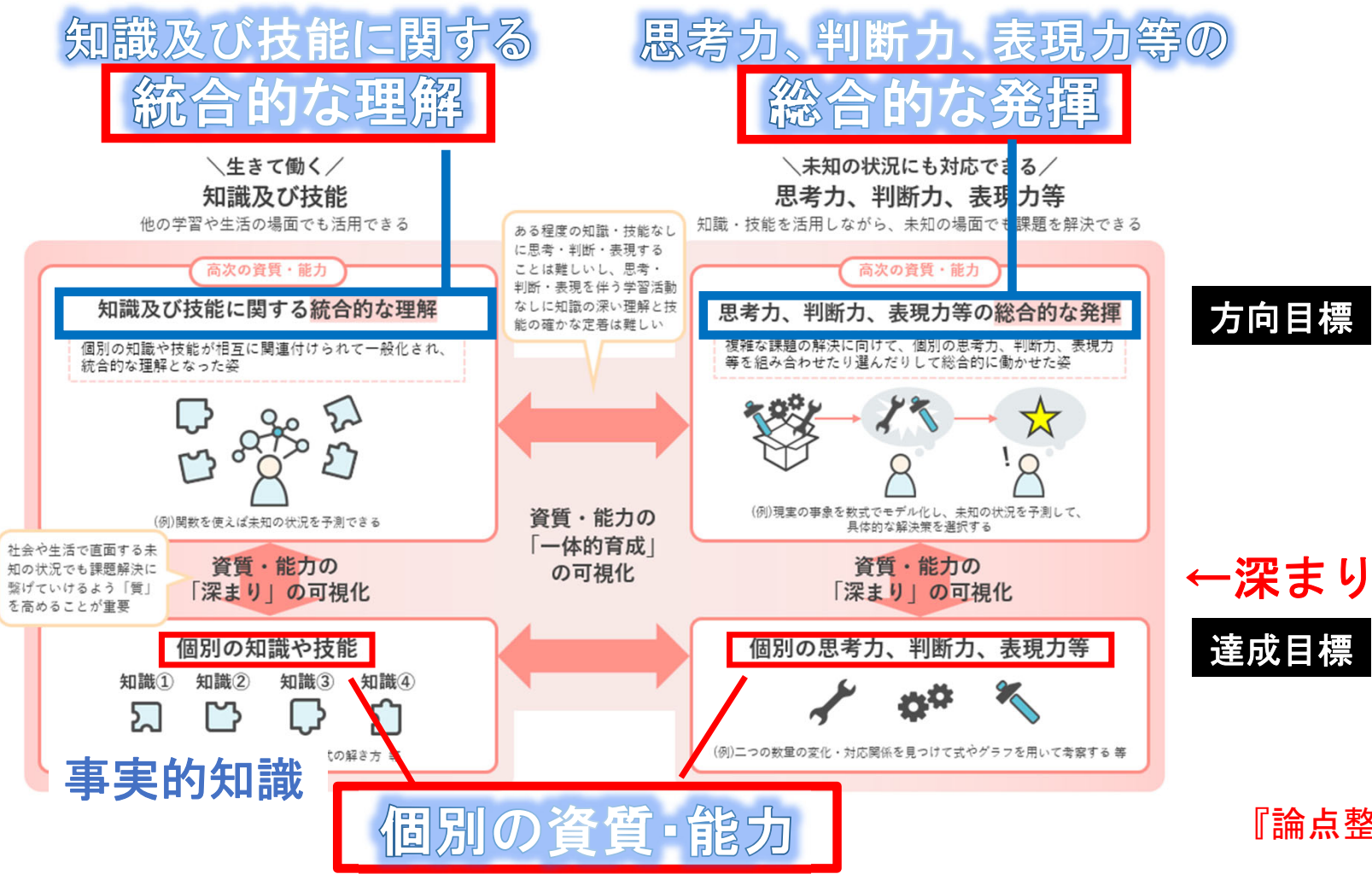
「統合的な理解・総合的な発揮」は、（１）で述べたように、個別の資質・能力の「深まり」を可視化し、「統合的な理解の状態」「総合的に発揮している状態」を一定の内容のまとまり（複数の内容項目・事項や領域等）ごとに、「資質・能力の軸」をシンプルに示そうとするものであり、それ自体を新たな内容項目として付加する性質のものではなく、むしろ内容の精選に繋がるものである。

これを踏まえると、「統合的な理解・総合的な発揮」は、各教科等の本質に迫ることができるよう、個別の資質・能力の育成にあたり単元構成を促し、深い学びの実現のために多様なアプローチが可能な学習活動を展開させる観点から、達成の目標ではないものの、内容のまとまりごとに資質・能力の獲得や発揮の方向性を示す目標としての性質を有するものである（いわゆる方向目標）。

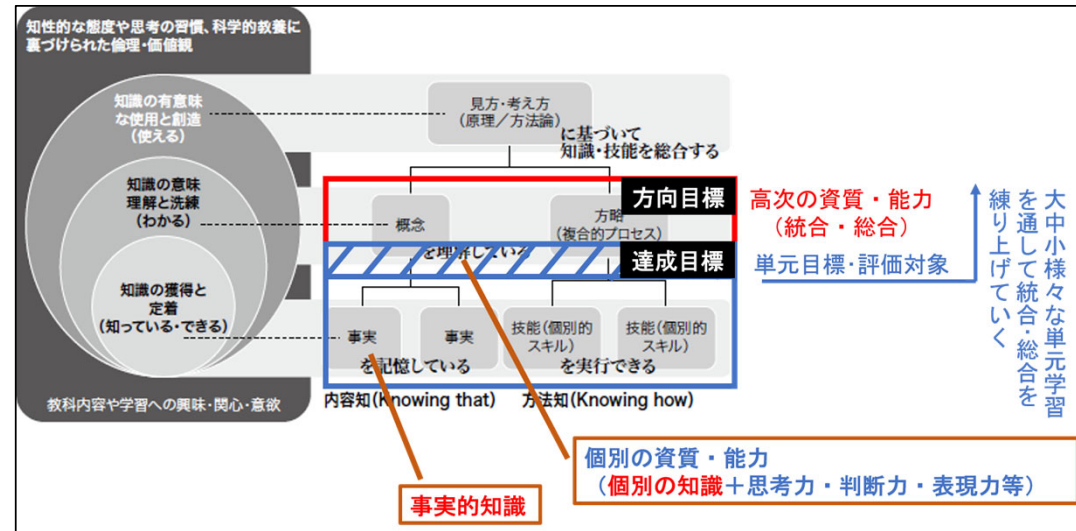
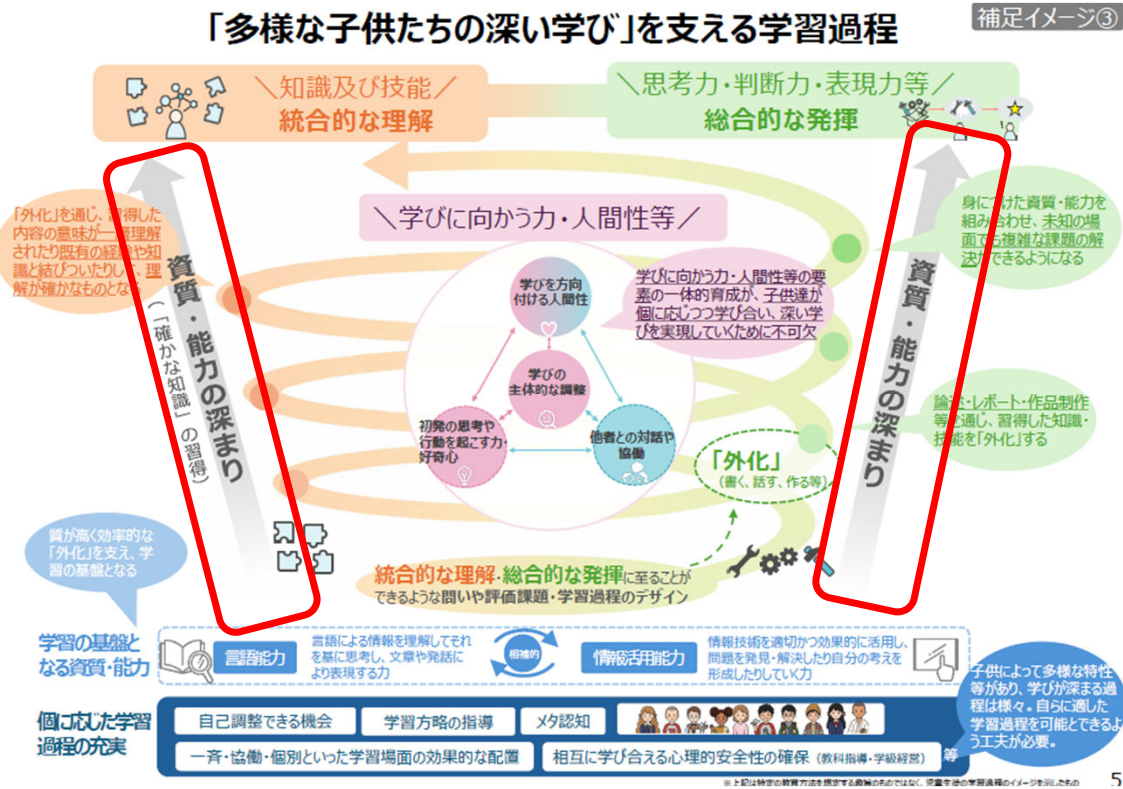
知の構造に対応させて理解すると…（→まずこの図で解説）



統合的な理解と総合的な発揮（→最後はこの図で理解しましょう！）

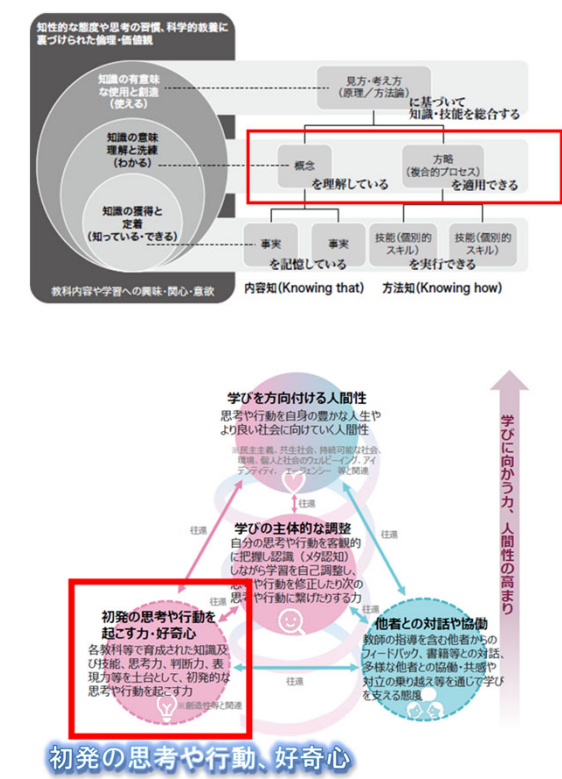
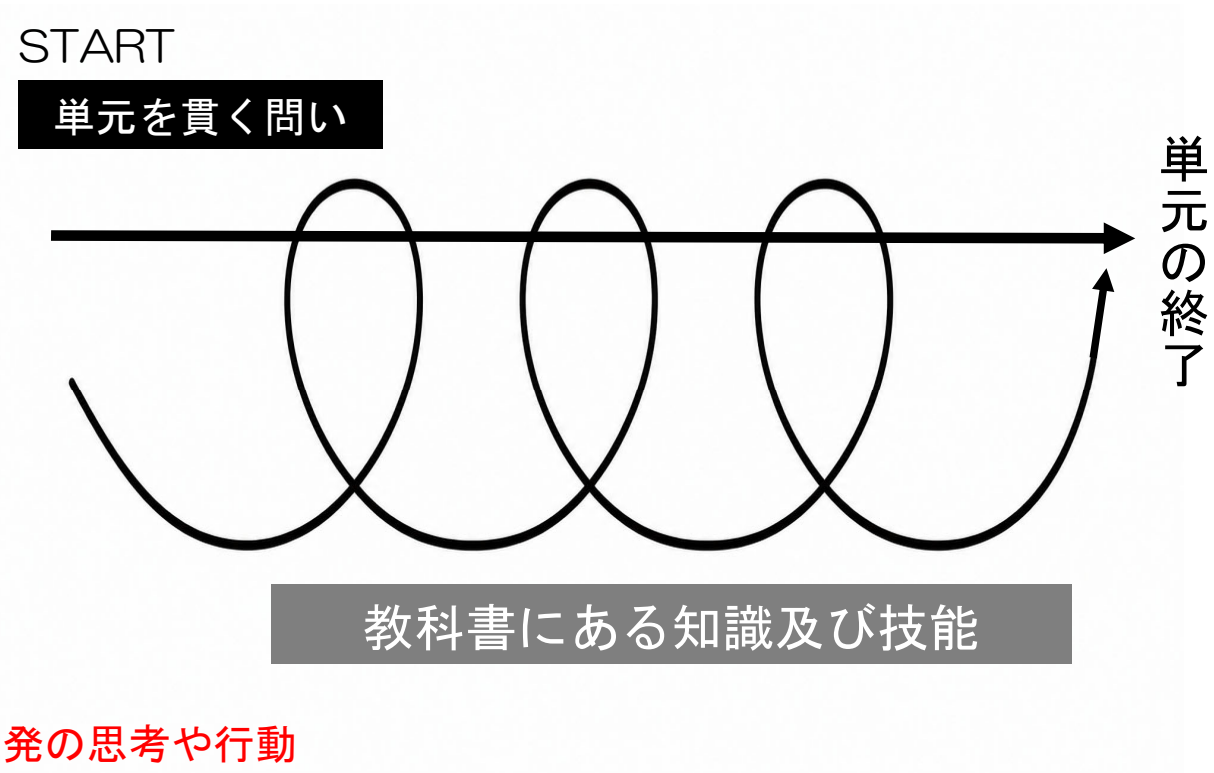


（課題） 事実に知識と個別の知識はコインの表裏



上に上がらなければ、「事實的知識」は「個別の知識」にならない

概念レベルでの授業づくり(=概念型授業[指導・学習])



(例：中学生の歴史) 「明治政府はどのように国づくりを進めたのだろうか」 (帝国書院)

最後は教科書会社！

- このように、構造化を生かした単元構想を実現することで、育成すべき資質・能力を意識せずに、教科書「を」網羅的に教える授業や「本時主義」といった授業づくりの実態からの脱却に繋げることが重要である。そのためには、教科書会社が編集に当たって、参考イメージで示したような整理を行いながら、「統合的な理解・総合的な発揮」に至ることができるような問いや評価課題、学習過程が明確となった教科書を編集し、指導書等でその構造を一層具体的に示していくことで、経験の浅い教師でも「統合的な理解・総合的な発揮」を自然に念頭に置きながら資質・能力を関連付けて深めていく授業づくりが徐々にできるようになっていく環境が整うよう促していく必要がある（教師が参考イメージを常に作成することは想定していない）。
- また、このように資質・能力の繋がりで単元全体を捉え、資質・能力を関連付けて深めていくプロセスを構想できるようになることは、単元・授業づくりにあたって、特定の学習内容の配列や学習形態に留まらず、個に応じた学習過程を重視した、単元目標への教師の多様なアプローチを一層支えるという視点でも意義が大きいものである。なお、参考イメージについては、実践者が子供の実態を踏まえて、多様で豊かな単元・授業づくりを行う際の足掛かりの一つに過ぎず、現場実践を過度に縛る趣旨ではないことに留意する必要がある。

参考資料⑥～⑨ P28-31

（４）構造化と学習活動との関係

補足イメージ③参照

- （２）（３）で整理した性質を備える「統合的な理解・総合的な発揮」を生かして教師が単元構想・授業づくりに向き合い、「深い学び」を授業で具現化するに当たって、資質・能力の「深まり」や「一体的育成」を学習活動に落とし込むことになる。
- 「深まり」や「一体的育成」は、思考・判断・表現の過程で知識や技能を用いた学習活動を行うことで具現化されるが、その過程では、言語能力や情報活用能力を発揮し、書く・話すなどの活動を通じ、理解した知識や思考した内容を表現する「外化」によって、自らの頭の中で意味理解を構築していくことが重要となる。このことは、自身の思考を経ずに、生成AIの出力をそのまま使うことで、学習過程の省略（※１）を招いたり、身体性に根差した人間ならではの価値の創造や意味理解を放棄してしまうといった弊害を乗り越える上でも重要となる。

このように、構造化を生かした単元構想を実現することで、育成すべき資質・能力を意識せずに、教科書「を」網羅的に教える授業や「本時主義」といった授業づくりの実態からの脱却に繋げることが重要である。そのためには、教科書会社が編集に当たって、参考イメージで示したような整理を行いながら、「統合的な理解・総合的な発揮」に至ることができるような問いや評価課題、学習過程が明確となった教科書を編集し、指導書等でその構造を一層具体的に示していくことで、経験の浅い教師でも「統合的な理解・総合的な発揮」を自然に念頭に置きながら資質・能力を関連付けて深めていく授業づくりが徐々にできるようになっていく環境が整うよう促していく必要がある（教師が参考イメージを常に作成することは想定していない）。

・また、このように資質・能力の繋がりで単元全体を捉え、資質・能力を関

溝上 慎一の教育論(動画チャンネル) No420
(「審議まとめ」の方向性② 教育課程企画特別部会2026.8.4)

「好き」を育み「得意」を伸ばす＋自己調整学習・ 方略との関係ー好きでなくても学習を価値付けるためにー

次回の内容

溝上 慎一 Shinichi Mizokami, Ph.D.

学校法人桐蔭学園 理事長
桐蔭横浜大学 教授

<https://smizok.com/>
E-mail mizokami@toin.ac.jp

【プロフィール】1970年生まれ。大阪府立茨木高校卒業。神戸大学教育学部卒業、1996年京都大学助手、講師、准教授、2014年教授を経て2018年に桐蔭学園へ。桐蔭横浜大学学長（2020-2021年）。京都大学博士（教育学）。
*詳しくはスライド最後をご覧ください

※本動画チャンネルは溝上が個人的に作成・提供するものです。

※公益財団法人電通育英会の研究委託を受けて行われています。

※本動画では字幕を付けていませんので、必要な方は「設定」で「字幕オン」にしてご利用ください。

ご視聴有難うございました
チャンネル登録もお願いします

質問、コメントは個人メールで受け付けます。

E-mail mizokami@toin.ac.jp

- お名前、ご所属

※可能なら専門分野や教科、職位なども教えてください、回答の助けになります。
なお、動画内では個人のお名前等は出しません。

- 質問、コメント等

